

とうきょうすくわくプログラム活動報告書

(年中組)

幼稚園番号 1973410

園名 子どもの森幼稚園

1. 活動のテーマ

「光」

テーマ設定の理由

園内外には光が多く差し込み、遊びの中で子ども達が興味関心を持てる環境にあるため、遊びの中で子どもの気づきも多く、生活の中野電気・陽・火等の光。保育の中の室内に入ってくる光。自然に恵まれた園庭で見られる光。地域の緑の多い公園での光。水の中や色に見られる光の不思議や疑問の声、子どもの「わくわく」に向き合っ
て、子ども達の不思議や探求心を一緒に楽しめる各学年（3歳児～5歳児）共通のテーマとして設定しました。

2. 活動スケジュール

5月	キラキラ太陽（導入）
7月	デカルコマニー（導入）
9月	光の絵本を見る、実験あそび（シャボン玉）シャボン玉の絵画
10月～	色水遊び（虹作り）、透明シートの絵
2月～ 3月	素材の違いで光の浸透が変わる体感遊び、ステンドグラス作り

3. 10月7日（月） 『シャボン玉遊び』

準備物

・シャボン玉液 ・モール ・平らな容器 ・水 ・クレヨン ・自由帳

環境

・保育室 ・屋上

製作・活動手順

- ① 保育室にて、シャボン玉について子ども達の意見や知っている事を発表。
- ② 自分が知っているシャボン玉を自由画帳に描く。
- ③ モールをシャボン玉液を付けられるように自分で形成。

- ④ 屋上に移動し、シャボン玉作り体験。
- ⑤ 保育室に戻り、体験したシャボン玉の気付きを伝え合う。
- ⑥ 自由画帳に、再度描く。
- ⑦ 友達の作品、自分の作品を見る時間を取り、意見交換。

子どもや教師の会話、姿

《保育室・体験前》

- 教師 「皆はシャボン玉って知ってるかな？」
- 園児 「知ってる！」「お家で遊んだことあるよ。」
- 教師 「皆で知ってるシャボン玉の絵を描いてみようか？」
- 園児 「描きたい！」「丸く描くんだ！」
- 「描けたよ。見て。大きいでしょ。」「色んな混ぜたよ。」「どう描くの？」
- ほとんどの子ども達が丸い形を描き、1色で塗ったり、何色かの色を塗り混む姿が見られる。中には描くのに迷う子どももいた。
- 教師 「水色やオレンジの色で描いたんだね。」「大きさも色々あるね。」
- 「皆が描いてくれたシャボン玉の絵と本当のシャボン玉を比べてみたいね。」
- 園児 「やってみたい。」
- 教師 「屋上に行ってみよう！」「アイテムが必要だから手伝ってくれる？」
- 園児 「やった～！」「いいよ。」
- モールでどんな形にしたら、いいのか自分で考えて見るように促し。
- 大きい円や小さい円、三角にする様子が見られる。取っ手も角度を付けたり、円を平らにする。

《屋上・シャボン玉作り》

- 教師 「液を入れてみるよ。」「自由に遊んで見てね。」
- 園児 「上手くできるかな？」「〇〇ちゃん、一緒にやろう。」
- 園児 「飛んだ！」「上手く出来ない。」「壊れちゃった。」「風吹いてる～。」
- 水を足して濃度を変える
- 教師 「少し水を足してみるね。」
- 園児 「シャボン玉成功した！」「色があるよ。」「何もして無いのに飛んでく～。」
- 「風で飛んでった。」「壊してみちゃお！」
- モールを液に何度も付けるのを繰り返す子どもや手に出来た泡を触ったり友達や教師に見せる姿が増える。

《保育室・体験後》

教師 「シャボン玉、どうだった？」

園児 「楽しかった。」「速く飛んでいった！」「虹色だった。」「いっぱい泡になった。」

教師 「屋上で遊んだシャボン玉をまた描いてみようか」

園児 「描く！」「僕の大きかったよ。」「色が回ってたよ。」「たくさん描くね。」

自由画帳に、直ぐに描き始める。1ページでなく数枚描く子どもも見られる。

描く終わると、自然に友達の絵を見にいく。

●写真





●振り返り（振り返りによって得た先生の気づき）

体験前には、描く絵には様々な大きさの円形を描いていた。色は単色から二色や複数の色などを用いて描いていた。会話の中では、色に対しての発言も聞かれたが、限られた子ども達からの発言であった。また、知っているがどう描いていいか悩む様子も見られた。シャボン玉を実際に作る時には、シャボン玉液の付け方やモールの角度に失敗しながら試行錯誤して作りだしたり、手を動かす速さで上手くいく事、風が吹くと飛んでいく様に、興味を高めていた。体験していく内にシャボン玉の色が付いている事にも気が付き、観察し始め、色が動くように見えたり、友達や教師に教える事で周りの他の友達が模倣していた。また、シャボン玉液をモールに付けていく内に手の平や指先に小さなシャボン玉が出来ているのに、興味を持ち始め、夢中になっていた。

体験後の絵を描く際には、描き出しに悩む事無く、自分達が気が付いた事や体験した事を会話しながら笑顔で描く様子が多かった。また、シャボン玉の色に対して単色でなく、様々な色を使う子どもが増えていた。一つの絵でなく、色々なパターンの絵を描いている子どももいた。

体験した事で想像で無く実体験となり、絵画に意欲的に活動に参加出来ていた。また、体験中は、行いながら気が付く事、知る事で探究心が深まっているように感じた。光に対しては、まだ多くの気が付きはないが、今後、様々な体験や会話の中で子どもの興味、関心が高まって行く様に種まきをしていきたい。

4. 10月18日（金） 『 カクテルパーティー 』

【準備物】

- ・プリンターインク（赤・青・黄）・水・プラカップ・平カップ・スプーン
- ・ボール・たらい・布巾

【環境】

- ・保育室

【活動手順】 ＊はじめに講師が色水の混ぜ方の説明をする。

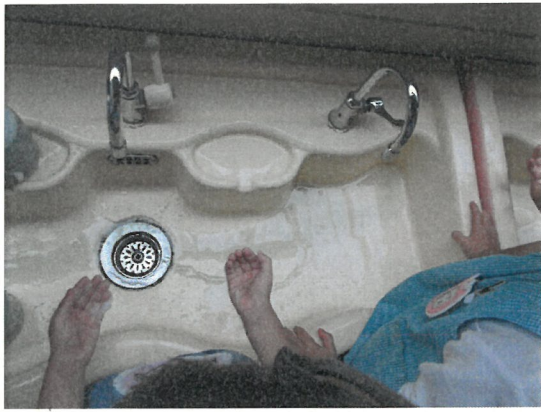
- ① 3色の色水と、水がある事を伝える。
- ② 4つのプラカップを使う事を伝える。
- ③ スプーンで1色ずつすくって、それぞれのプラカップに入れる。
- ④ 好きな色を2つ選んで色を混ぜ、何色が出来たか伝え合う。
- ⑤ 色の発見が出来たら、他の色もどんどん好きに混ぜていく。

【体験】

- ・教師が事前に用意した色水が、何色があるか子ども達と色について話す。
- ・前回しゃぼん玉で遊んだ事や飛んだ様子、どんな色だったかを振り返る。
- ・子どもは、教師の質問に「虹色に見えた。」「青。」と答える。
- ・講師が子ども達の色の気づきに答え、用紙した色水を使って、虹を作ろうと話す。
- ・虹のイラストを見せて、虹は何色が質問。
- ・見たままの色を子ども達は答える。
- ・教師は、用意した色水だけでは虹が出来ないと話し、色を混ぜてみる事を提案する。赤と青を始めて混ぜる。混ぜる際に子ども達に何色になるか質問。
- ・子ども達は、「紫。」と答える。
- ・混ぜた色を見て、色が変化した事を嬉しそうに見て、喜ぶ。
- ・虹の色が1色出来た事を話し、他の色も混ぜて見ると何色が出来るか話す。
- ・皆で虹色を作ろうと話し、やり方を説明する。
- ・説明後は、子ども達が実際に色を混ぜていく。
- ・子ども達が混ぜる様子を見ながら、色々な声掛けをして、色の発見を一緒に楽しむ。
- ・色を夢中で混ぜていき、色々な色が出来た事をその都度教師に話し掛ける姿が見られた。子ども達の色の発見に、「緑が出来たね。」「お茶の色かな。」「美味しそうな色が出来たね。」「かんぱーい。」などと子ども達と色作りと会話を楽しむ。
- ・色々な色を混ぜたあと、虹色が出来たか教師が質問すると、子ども達は積極的に出来た色を教師に教えたり、友達に見せたりして嬉しそうにしていた。
- ・出来た色水を、最後は1つのボールに入れて、虹とは違う色の発見をする。
- ・活動終了後、色水を流した時に、流れる様子を観察したり、使ったプラカップを重ねてみたりして楽しむ姿も見られた。

4. 写真





●振り返り（振り返りによって得た先生の気づき）

- 普段の活動で絵の具を使う際は、机や画用紙の上にたれないように扱い方などの注意点を伝えていたが、今回の色水遊びでは注意点を伝えなかった。注意する言葉がなく、色水を混ぜている時にもこぼれた色水を拭く事なく、見守りのみだった事で、子ども達は、伸び伸びと様々な色を混ぜて、夢中で楽しむ姿が見られた。
- 色水を混ぜる際は、自分で考えながら、好きな色水を積極的に次から次へと混ぜて色水を作っていた。
- 色水を混ぜて変化した事に気づき、目を輝かせて先生や友達に声を掛け、見せ合ったりしながら楽しむ姿が見られた。
- 色を混ぜる際に決まりがなかった為、好きな量を好きなカップに入れ、自発的に色水遊びを行い、色の発見が出来ていた。

5. 10月25日（金） 自由想画

【準備物】

- ・透明シート・絵具（白・水色・赤・黄・オレンジ・黄緑・黒）
- ・筆・紙コップ・雑巾

【環境】

- ・保育室

【活動手順】

- ① 参考作品のシートを窓に透かせ、絵を見ながら意見交換。
- ② 講師がシートに絵を描きながら約束事（色は混ぜない。使った筆は取った紙コップへ戻す。）を伝える。
- ③ グループ事（約6人）に分かれ、白の絵の具で自由に絵を描く。
- ④ 水色・赤・黄・オレンジ・黄緑・黒の絵の具を使い、自由に絵を描く。

【活動の内容】

・参考作品のシートを見て「かぼちゃがかいてある」「奥にいる先生が見える」と思った事を自由に発言。

- ・講師が実際に透明のシートに絵を描き始めると、歓声が上がった。

講師「次は何を描こうかな？」

子ども「にじ」「太陽」「雲も描いて」

講師が絵を描き、透明シートの向こうから子ども達に話しかける。子ども達は喜んでいて。

- ・まずは白色で描きその後にその他の色を使って絵を描くことを講師が伝える。

子ども「なんで？」

講師「白で描いてから色を足していくと面白いよ」

- ・注意点（筆は取った紙コップに戻し、色が混ざらない様に気を付ける。色は混ぜない。）を伝える。

- ・白から描き始める。伸び伸びと好きな絵を描く子もいれば、なかなか描き始められない子もいる。

講師や担任が何を描いているか質問。「うさぎを描いてる」と質問に答えたり、「早く色を使いたい」と次の過程を楽しみにする姿が見られる。

- ・透明シートに絵が増えてきた頃、講師がその他の絵の具を机の上に置き、色を重ねて塗って良い事を子ども達に伝える。

- ・白の絵の具で描いた絵をなぞる子、中を塗る子、上から別の絵を重ねていく子がいる。

- ・子ども「見て見てー！〇〇を描いたよ」

担任「カラフルで素敵な絵が描けたね」など会話を楽しみながら描いていく。

- ・講師が、空いている所を見つけて移動しながら描いて良い事を伝えたと、嬉しそうに移動しながら大きく絵を描いていた。

・活動終了後は「早く太陽に当ててみたい」「いつ乾くかな」と乾いた後の活動にも期待を寄せていた。

【写真】



●振り返り（振り返りによって得た先生の気づき）

- ・普段は紙に描いている為大きな透明シートを見て描き始める前からワクワクしている姿が見られた。材質を変えることで、普段よりも期待をもって意欲的に取り組むことが出来るのだと気付いた。
- ・思い描いたものを形として表現出来る子もいれば、筆を伸び伸び動かして色を塗っていく事を楽しんでいる子が見られ個人差があった。
- ・自分のスペースが決まっていなかったことで、普段すぐに描き終えて暇をしてしまう子が、最後まで空いているスペースを探して楽しんで描いていた。
- ・自由な絵を描く事に苦手意識がある子も、友達の発言や講師とのやり取りの中で描きたいものが見つかり、スムーズに描き始める姿が見られた。
- ・カクテルパーティーでの色混ぜが記憶に新しく、他の色も作りたいと話す姿、虹を描いて沢山の色を使って描く姿が見られた。子どもたちの中で美術の活動を一貫性をもって取り組んでいると感じた。
- ・完成後は「光に当ててみたい」「空にかざしてみたい」という声が上がった。作品展で天井に展示することで更に子どもたちが楽しさを見出したり、新たな気づきや発見が出来るように振り返りをしていきたい。

6、 2月25日（火） 『すかし遊び』

【準備物】

- ・美術「自由想画」で作成したシート（各クラス、4つのシートを事前に合わせ1シートにしておく）
- ・年長組が作ったシート

【環境】

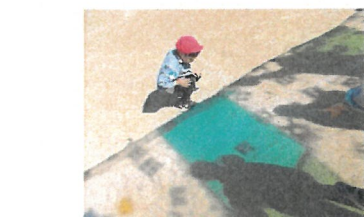
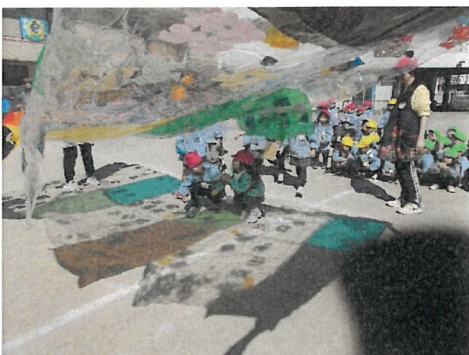
- ・園庭（午後）

【活動手順】

- ① 園庭に3クラス集まる
- ② 作品展で飾った物を1つのシートにした物を見せる
- ③ シートを太陽の下で見たらどうか話しをする
- ④ 1クラスずつ、各クラスのシートを持つ。他のクラスの子ども達はシートに入る
- ⑤ 太陽にすかして、上からと下からどのように見えるか観察

●写真





●振り返り

- 自分達が作ったシートが1つになり大きくなっている事に喜び姿が見られた。
- 1クラスの子ども達が手分けして3クラス分のシートを持ち、2クラスはシートのトンネルに入ったり通ったりして透かして見た。
- トンネルに入る事に喜び、観察というより叩いて楽しむ子どもが多かった。
- 午後に行った為、陰が斜めになっていた。斜めに陰がうつった事で、地面の陰に気付かずらさがあった。職員が声を掛けると上だけではなく、下を見て陰に気付く、描いてある形を言う子どもがいた。
- 年長組が作った色つきシートを透かした際には、年中組の陰は黒、年長組のは色がついている事に気付く子どもがいた。
- 行った日が午後という事と、午後で陰が斜めになったという事で、気付きが感じずらさがあった為、別日に行っても良かったという反省が職員から出た。
- テーマの光に気付く事が出来る様に、日々の保育の中に光を感じられる様な工夫が必要であると思った。

7. 2月28日（金） 『 ステンドグラス作り 』

【準備物】

- ・クリアファイル1 / 2
- ・花紙（黄、水、紫、ピンク、赤、黄緑、クリーム他） ・セロハンテープ

【環境】

- ・保育室＆園庭（屋上）

【活動手順】 ＊事前にクリアファイル1枚を半分にカットしておく。

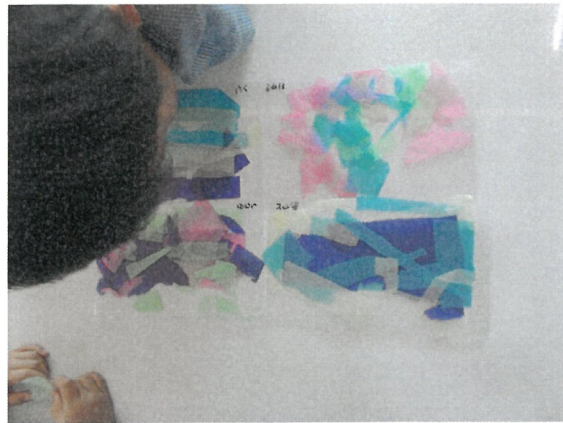
- ① 名前を記入したクリアファイルを配る。
- ② 花紙をちぎって挟む。
- ③ 挟んだ花紙が出てこない様に、セロハンテープで止める。
- ④ 保育室、園庭や屋上で作ったステンドグラスがどの様に見えるか観察する。

【体験】

- ・クリアファイルを配ったのちに、クリアファイルだけでどの様に見えるか意見を聞く。
《子ども》 「くもって見える。」 「向こうが見える。」
- ・花紙を挟むとどの様に見えるか意見を聞く。
《子ども》 「虹色に見えるかな？」 「カラフルできれい。」
- ・色々な意見を聞いたのちに、好きな色の花紙を取り、ちぎってクリアファイルに挟んでいく。
《子ども》 「花紙入れたのに動く。」 「クリアファイルにくっつく。」
挟んでいくうちにクリアファイルに付く事に子どもが気づき、静電気の話をする。静電気の話聞いて、納得した様子で、静電気の力を使いないながら花紙を挟んでいた。
- ・挟んだ花紙が、どの様に見えるか上に向けながら挟む子どもがいた。
《担任》 電気の光に照らしながら挟んでいるよ。形とか色がどういう風に見えるか、見るのも良い案だね。
- ・挟んだ花紙が出ない様に、セロハンテープで止める。
- ・作ったステンドグラスが、どの様に見えるか室内の電気や園庭、屋上で、体験する。

●写真





●振り返り（振り返りによって得た先生の気づき）

- ステンドグラス作りを通して、静電気やどの様に見えるか楽しみながら取り組む姿が見られた。その際に、静電気が発生し、挟んだ花紙が動く事に気づき、静電気の話をした。静電気を知っている子どもがいれば、知らない子どももいて学ぶ機会となった。
- 電気の光に透かしながら花紙を入れているを子どもを見て、担任が話し掛ける様子を汲み取った子どもがおり、挟み方を変える子どもが増え、工夫をする姿が見られた。
- 室内では、電気の光で見ていた子どもが、透けて見える様子を喜んで、友達と見比べる姿があった。ステンドグラスを通して身近な物を見て、感想を友達と言い合う姿も見られた。
- 園庭では、太陽の光に透かして色の混ざっている所を見る子どもが多くいた。「地面の方にあてて見るとどういう風に見えるのかな。」の声掛けに、上から下に変えて見る子どもが増えた。地面を見た際に、花紙の色よりも形に気づき、「富士山に見えた。」と感想を言う子どもがいた。
- 屋上で見たクラスは、太陽の光では薄く見え、光がないと濃く見えた事に気付く。下を見た際には人工芝で色が分からない事に気づき、園庭に移動した。園庭では、陰や色等に気づき楽しみながら見ていた。場所を変えて見る際に、見え方の違いに気づきがあった。
- 「色は何色に見えるかな？」という問いには、「茶色、あまり色が分からない。」と答える子どもが多く、影の色については濃淡のみの発見になった。色にも注目出来るようにするためには、地面では色を感じにくさがあった。花紙の他にカラーセロハンを使用すると、透かした時に見え方が違ったかもしれない為、検討が必要であったかもしれない。

●まとめ

- 子ども達は、「光」をテーマにした活動の中で、色々な物を見たい、どうなるんだろうと感じる中で、触ったり、ちぎったり、混ぜたりと様々な方法で情報を得ようとしている姿が見られた。自分の知っている事を引き出しながら、新たな気づきを発見し学びを得た様にも感じた。また、自分だけではなく、相手の意見にも耳を傾けて聞き、お互いを認め合う事が出来る様にもなっている。
- 今回、「光」のテーマを通して、様々な素材を使い、自然や電気の光に照らして、反射する光や影の形を感じる機会となった。
- 普段約束を守りながら行う事も、今回、自由に自ら試したり、考えたりして、様々な素材を使った活動を通して、子ども達は興味を持って取り組む姿が見られた様に感じた。
- 大人が子ども達の意見や考えを摘み取らないに大切に育てていく必要があると感じ、子どもの考えや可能性が発揮出来るような保育、環境を作り出す事も必要だと思いました。
- 「光」の1つのテーマを続けた事で様々な発見が見られた。作るだけではなく、自由想画や年長組が作ったシートを透かし遊びした事で、光や陰に対して興味が更に湧いていて期待を持って取り組む事が出来た。前半はグループでの作成や遊びが多かったが、最後にクリアファイルでステンドグラスを作成出来た事で、それぞれの集大成が出来て気づきが増えた。気づきに対しての意見交換も出来た事で活動に実りがあった。
- 今回はカリキュラムに組み込む形で保育者が流れを作っていたが、今後他のテーマに子ども達が興味を示した際は、新たな発見をしていく事が出来る様な環境を作っていきたいと感じた。

5月24日（金） 「キラキラ太陽」

【準備物】

白厚画用紙・糊・糊紙・折り紙（金）・クレヨン

【環境】

・保育室

【手順】

- ① 画用紙に太陽の丸を思い思いに描く
- ② 金色の折り紙をちぎる
- ③ ちぎった折り紙をクレヨンで描いた太陽に貼り付け太陽を作る。

【振り返り】

- ・光の導入として、身近な題材の太陽を作成した。
- ・光はどんな風に見えるかな？等問いかけながら、進めたことで子どもたちもイメージしやすくなっていた。
- ・太陽が輝いている様子を自由に表現できるように、講師の先生が楽しく進めてくれたことで、子ども達も画用紙を大きく使って表現することが出来ていた。

7月5日（金） 「デカルコマニー」

【準備物】

・ビニール袋・ポスターカラー・画用紙

【手順】

- ① 画用紙に絵の具を乗せる
- ② 画用紙を半分に折る
- ③ 画用紙を広げる

【振り返り】

- ・光の反射によって色の見え方を伝え、どのように変化するか伝える。
- ・明るい色・暗い色によって色の違いを知り、自分でどの色を選ぶか考えながら製作に取り組むことで、思い思いに表現することができた。